

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311



椿 竹本 久子 作 (ちぎり絵)

をやの思いをにをいがけ、

うちうち
内治に心を配り おたすけに誠の心を尽くそう

1. 一步前進 百万軒
2. おつとめの徹底とひのきしん
3. 機を逃さず おさづけの取次

「おやさとふしん」 青年会ひのきしん隊



来年には、南右第二棟瓦葺きひのきしんも始まる。

ひのきしん隊第六八〇回隊へ、笠岡分会より佐藤委員長はじめ総勢十一名(内委員三名)にて参加させて頂きました。残念ながら心定めの人数、十四名には至りませんでした。大きな怪我も無く、二十四日間を無事にお連れ通り頂きました。

大まかな日課は、朝つとめ、午前・午後作業、夕つとめ、夜の修練(十日間ほど)となっております。中ごろには、皆が楽しみにしている親善大ソフトボール大会が予定されておりましたが、今回は雨のため中止となつてしまいました。行事の中でも、個人的に好きなのは、にをいがけの日です。それぞれ班ごとに決められた場所に行き神名流し、路傍講演、戸別訪問等を行います。これといって特別なことをするわけではありませんが、普段一緒にすることの無い系統の違う方々と出来るということで皆非常に勇んでいる姿を今回も見させて頂くことが出来ました。

土佐班長は入隊式において、「作業によっては、なんでこんな作業を・・・と言うこともあるかもしれないが、私たちは日の寄進、つまり二十四日間という時間をお供えさせて頂いている。」といった意味の話しをされました。今回は南右第二棟の普請が始まっており、作業に参加させて頂くことが出来ました。毎日というわけではありません。ひのきしんのほとんどは、倉庫内整理、テント整理、古い建物の解体作業といったおやさとかたやかと関係の無い作業で占められます。しかし、ひのきしん隊とは、班長のお話し、又、あらかとつりよう指針に「進んでばに伏せ込み、親のいきをかけて頂く」とありますように、青年会にて常時用意して頂いているがばへの

伏せ込みの場であり、又、共同生活を通して心の成人を図る修練道場であると思わせて頂きました。

解隊式にお出まし下さった青年会長様は、二代真柱様のお言葉「神一条の精神、ひのきしんの態度、一手一つの和」を引用して、『ひのきしんの、実行等ではなく、態度という言葉を使われた。態度というものは一朝一夕に身につくものではなく、毎日心がけておなくては身につかないものである。態度という言葉を使われた心を汲み取って日々を通じて頂きたい。』と、ひのきしんについてご説明くださいました。

ひのきしん隊に参加しなくてもひのきしんは出来ます。教会事情、時間的な理由で参加したくても出来ない方もあると思いますが、なにもかも置いておけば二十四日間ひのきしんをさせて頂くことによって、態度となる下地作りになり、親神様、教祖もお喜び下さると思います。また来年は、ひのきしん隊発足五十周年を迎えます。笠岡分会では本年と同じく十一月に参加を予定(工程表ではその頃に南右第二棟の瓦葺き予定)しておりますので一人でも多くのご参加をお願い致します。最後になりましたが、お心をお寄せ頂いた皆様にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。



―西境内地拡張整備ふしん 伏せ込みひのきしん

十一月三十日、待ちに待った伏せ込みひの

笠岡に繋がる七百名を超える教友が西礼拝場前に集合、ぢばへの伏せ込みを誓う。

きしん回参、前日の雨も何とか上がり、午前九時西礼拝場正面にて大教会長様のお手に合わせて、参加者全員で参拝、その後ひのきしんをさせて頂きました。

当日は、前日の雨の影響で足元の少々悪い所もあり、中には長靴、カッパ等、準備の良い方もいくらかあり、又、他の直属からも大勢この日に合わせて参加される所もあり、年祭に向けての一人一人の意気込みを感じる事が出来て、私を始め、参加された方々は、教祖から大きなお土産を頂戴されたのではないかと思いました。

終了後、大教会長様より配布下さいましたお礼の挨拶文の中に「いくら伏せ込みが真実といっても、その上に家を建てなければ何の



夫婦揃うてひのきしん。代を重ね伏せ込む姿も 大教会長様の笑顔に、心も勇む!

意味もないのでありまして、伏せ込みを意味あらしめる為には家を建てなければならぬのであります。おぢばへの伏せ込みは、陽気ぐらしへの家を建てなければ意味がありません。陽気ぐらしという家は、にをいがけとおたすけで建てるのであります。」と伏せ込みひのきしんに対する思いを述べておられました。

まずは、教祖より頂いた感激というお土産を身近な方々に伝える事が第一歩であり、又今回色々な事情でおつとめ頂けなかつた方々も、今後何かの機会を利用しておつとめ頂くか、或いは、それも出来ない方は、別の方法(御恩報じ等で、今の旬に少しでもおぢばの御用の一端でもつとめさせて頂きたいものと、今回の伏せ込みひのきしん回参を通して思わせて頂きました。

布教部員 三代 幸



会場ではバケツ、一輪車等、多岐に渡って準備下っている。お孫さんの元気に、足取り軽く

委員長部長
後継者講習習白会

去る十一月二十二日、二十三日の二日間にわたって、委員部長後継者講習会を実施しました。

受講者は二十名で、託児もほぼ同数ほどでした。午後二時過ぎより開講。まず、女鳴物について支部長様よりお話があり、続いての練習では、日頃あまり勤めることのない坐りづとめを主にしました。夜は、支部長様が年祭を迎える今の時旬の大切さについてお話しされました。次いで、受講者三名の感話は、身近な仲間の話だけに、聴く人達の心に訴えるものがあつたようです。

二日目は、大教会長様が伏せ込みということについて、現在進められている西境内地の土持ちひのきしんを例にして話されました。その後、いくつかのテーマをもとにしての練り合いと、その発表を行って講習会を終了しました。

大勢の幼児や、赤子の世話に、あるいは、日頃集まる機会の少ない受講生を楽しませようと、委員部長達、先輩も陰でがんばりました。

婦人会 上原 順子

談話室



真実の伏せ込みひのきしん

久福分教会長 佐藤 憲 美

11月30日、西境内地拡張整備ひのきしん実施の打ち出しを頂き、当教会のよふぼくの方々に真実の伏せ込みをと、比較的若い壮健な方々を中心に参加者を募っていました。仕事の都合とか、種々の事情で、思惑通りの参加者を募集できず、この度は仕方ないと諦めていました。

ある日、遙か古の女子青年で、80才のH.Kさんと、86才のY.Kさんより、ひのきしん参加の申し込みがありました。お二人いずれも足腰が弱り、普段、歩行時、シルバーカーに縋って歩かれていた方達ですが、「足手まといになるかもしれないが、ちばのふしんの伏せ込みひのきしんは、私達には最後のチャンスだと思います。百二十年祭を元気で迎える様、このたび本部へ、お願い参拝させて頂き、シルバーカーで土持ちひのきしんに参加させて頂きたい。」との申し出でした。

私は、このお申し出に、頭をガンと打たれた思いがしました。まさか、この身上の方々が、土持ちひのきしんに参加されるとは思いも掛けなかったし、又この様な思いを抱かれ

ているとは何い知ることでもできなかった為、お二人に参加有無の問い合わせもしなかった自分に、恥じ入るばかりでした。そもそもこの度の土持ちひのきしんは、ふしんの量よりも質、即ち真実の心を伏せ込ませて頂くもので、たとえ一握りの土でも、その人の誠真実があれば受け取ると仰せいただいています。このことへの私の理解不足を知らされ、大いに反省させられました。早速、お礼を申し上げ、参加していただく様手配させていただきました。29日出発時刻30分前には、お二人とも、意気揚々と、丸で子供が遠足に行くかのように喜び勇んで、愛車(シルバーカー)を駆って集合いただきました。しかし、天理地方の天気は、あいにく雨天の様子、足元不良のためシルバーカーでの歩行は困難と予測されるので、現地で借用する車椅子でのひのきしんを提案。お二人は、押し手の人に遠慮して固辞されたが、「二人分の誠真実を運んでください。」と説得し、承知いただきました。

当日は、曇天ながら雨は降らずありがたいご守護を頂き、本部参拝、西礼拝場前で大教長のご挨拶をいただいた後、車椅子を駆つてふしん現場に到着。小さなバケツを借り、押し手と当人の、真実で一杯の土持ちひのきしんを堪能いただきました。車椅子での参加に、周囲の方々の驚きと賞賛の眼差しで「ご苦労さま」の言葉に少し恥らしいながら・・・むりにとめるやないほどに

「うるあるならたれなり」と
(十一下五目 六ツ)



▽今回の課題は「時」、撰六十八句中、笠岡に繋がる教友の方四名、四句が見事撰ばれ掲載されていますので転載させて頂きます。
おめでとうございます。

準秀詠

川島郷分教会後継者 香取 満彦

時句に

添うて誘いの匂いがけ

佳詠

東悠分教会長夫人 田林 美智子

時は今年

祭の匂匂いがけ

佳詠

川島郷分教会前会長 香取 敏子

過ぎ去りし

時の苦勞が今芽吹き

佳詠

芳阪布教所長 杉原 幹夫

新神殿

今感激の時迎え

養徳社発行

『陽気』誌十二月号、「道柳」より転載

どうぞこの「かさおか」誌に於いても、ジャンル、自薦他薦は問いません、ドンドン読者の皆様方の才能溢るる作品のご寄稿をお待ち致しております。

立教167年年頭会議

1月20日午後2時より



実践項目集計	10月
百万軒にむかひ	64,608
おきつけのお取次	4,176
身上事情お願ひ	870
提出教会	117

献血のご案内

期日： 1月21日（日）祭典終了後

場所： 大教会談話室にて受付

※新春を迎え、輸血用血液が非常に不足致します。
身上かしのもの・かりものとお教え頂いております
親神様のおはたらきに感謝して、勇んで献血ひのきしんにつとめよう！

訂正とお詫び
十一月号献血の案内で、期日が十二月二十一日となっておりました。誠に申し訳ございませんが、平成十六年一月二十一日に変更になりました。深くお詫び致します。

十一月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一
慎んで申し上げます

親神様には一列子供かわいいの親心のまに／＼昼夜を分かたずお見守り下さり常に
陽気ぐらしが出来るようにと天然自然のお働きを通して御守護お導き下さっておりま
す事は有難く特に今は山々の紅葉や実りの喜びを味わわせて頂く等勿体ない極みでござ
います。しかしながらその収穫の喜びに水を差すような事件が相次いでおり年々悪
質化しております事は誠に残念でなりません。私共は御高恩に對し日々御礼申し上げ
ると共に未だ道を知らぬ人々に親神様の思召を知らしめ少しでも陽気ぐらしへと歩み
出して貰うべくつとめとさづけを芯ににをいがけにおたすけにと勤め励ませて頂いて
おります

その中にも今日の吉日はこれの大教会にお許し下されたおつとめをつとめる日柄で
ございますので只今からおつとめ奉仕者一同たすけ心も一入に明るく勇んで座りづと
めてをどりをつとめて十一月の月次祭を執り行わせて頂きます。御前には今日の日を
楽しみに寄り集い共にお歌を唱和し改めて御礼申し上げる皆の眞実の状を御覧下さい
まして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて教祖百二十年祭に向けての心の指針としての論達第二号が發布されて一年余り
又三年千日と仕切つて実践項目を申し合わせ成人の歩みを始めてより一年近くになり
ます。改めて今日までの歩みを振り返ってみますと果たして「人をたすける心の涵養
と実践」の思いに添い切れているかどうかはなほだおぼつかない感があります。昨今
のニュースを見てみますと周りから見て何不自由のない恵まれた家庭と思われる家族
間で悲惨な事件が起きています。いかににをいがけが行き届いてないかという事を痛
感する次第でございます。今年もあと一ヶ月余りとなった今こそしっかりと反省し来
年に繋げる為にも本年残された日々悔いのない成人の歩みを進めさせて頂く覚悟でござ
います

又来る十一月三十日には西境内地拡張整備ふしんの上に笠岡として心一つに揃え
て土持ちひのきしんに汗を流させて頂き年祭に向かう成人への伏せ込みとさせて頂く
所存でございます

何卒親神様には旬にふさわしい成人を目指しひたむきにたすけ一条の眞実をつくり
切る皆の誠の心をお受け取り下さり万たすけの上に更なる自由の御守護を賜りまして
荒び勝ちなる人々の心が我身助かりから人助けの心に立て替わりお望み下さる陽気ぐ
らしの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し
上げます



今春頃行われた婦人会笠岡支部総会に参加送迎バス
の運転を頼まれた時の事。島根県からは早朝の五時始
動です。寝ぼけ眼で上級へ、途中の各集合場所等諸委
員をお迎えして、上級教会で参拝後の出発である。

若手委員と言うより、女子青年？から手渡された包
み！なんと「手作りサンドイッチに菓子パン」でした。
最近若い女性より頂戴物なんて無かった私は「何と幸
せ者！」と喜んでバクついた。聞けば前夜から準備し
たとが、心に沁みる味がした。大教会までの道のりは、
委員部の役員が同行者に趣旨やら支部長様の想いを熱
弁し、意気高揚させている。流石じゃの、と心地よ
く走らせて到着。総会の内容は前紙面でご存知の通り
です。その帰り道中が大変！「やっぱお勤めは○○○
が良かった」とか「○○○が美味しかった」の身びい
さ我が善がりから始まり、まあ食べるわ！喋るわ！呑
むわ！仕舞いには歌いだす始末、賑やかな宴が延々と
帰着まで続いた。そのパワーたるや、総会で炸裂した
ままで「箸が転んでもおかしい」頃にタイムアップ。
陽気なことを地で持ち合わせて居るそれである。女
は道の台」とお聞かせ頂きますとおり、人間を育む力
を持った「正に地」でありますよ。

昔「御神さん」と呼んだのは、娘から嫁へ、さらに
姑に化ける？からではなく「子宮」という宮・神社が有
るからだ」と聞いたことがある。男を生かすも枯れさ
すも根からの養分次第とか？そんな委員部の日頃の
活動は、月例会や祭典時のバザーなどを通じて目標に
邁進し、確かな行動が会長に響いて頂ける「ひたぶる」
の行いと賞賛頂いて、百二十年祭への地道な原動力と
なり、皆を引っ張って行く気概がこれからも続いてい
くである。そんなサンドイッチの味が忘れられない
晩秋であります。